



MARUZEN CHI
Holdings

平成25年1月期決算発表 ご説明資料

(当社第3期 平成24年2月1日～平成25年1月31日)

平成25年3月15日
丸善CHIホールディングス株式会社

説明者:代表取締役社長 小城 武彦



MARUZEN CHI Holdings

1. 当社の体制図





2. 当期・平成25年1月期 業績サマリー(連結)

- 第3四半期終了時点では、地方交付税の執行の遅れ、円安の進行等から大変厳しい状況が予想されたが、書店事業、図書館サポート事業での粗利の改善が進んだこと、全社的な経費削減を徹底したことから、当期業績は同終了時の予想から利益面で大きく改善した。
- 売上前年比では、書店事業におけるスクラップ&ビルド、公共図書館向けで特別交付金の交付終了等の影響から減収となった。
- しかしながら、利益面では、書店事業、大学向け販売事業での収益改善が進んだことから、対前年増益となり、当期純利益416百万円を確保した。

◆平成24年2月1日～平成25年1月31日

(単位：百万円)

【平成25年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
業績予想値(※1) (平成24年12月14日発表)	174,000	750	650	△150
実績(本日発表)	172,289	1,172	1,130	416
対業績予想 増減	△1,711	+422	+480	+566
対業績予想 比率	99.0%	156.3%	173.8%	---

(※1 業績予想値については本年3月7日業績予想修正開示をおこなっております。)



3. 当期・平成25年1月期のセグメント損益(連結)

◆平成24年2月1日～平成25年1月31日

(単位：百万円)

連結	売上高			営業利益		
	当期	前期	対前比	当期	前期	対前比
文教市場販売事業	64,881	68,510	94.7%	1,961	1,662	118.0%
店舗・ネット販売事業	78,657	83,741	93.9%	△263	△734	---
図書館サポート事業	15,490	14,010	110.6%	1,084	1,036	104.6%
出版事業	4,914	5,008	98.1%	258	374	69.0%
その他事業	8,344	4,742	176.0%	591	403	146.8%
消去又は全社	---	---	---	△2,460	△2,736	---
合計	172,289	176,013	97.9%	1,172	5	---



4. 主要事業 ①文教市場販売事業

(単位：百万円)

平成25年 1月期	当期	前期	対前期
売上高	<u>64,881</u>	68,510	△3,629 (94.7%)
営業利益	<u>1,961</u>	1,662	299 (118.0%)

- 大学向け書籍販売が全般に厳しい状況であったこと、また公共図書館向け書籍販売で、前年の交付金付与が終了したことに伴い、売上高は3,629百万円の減収となった。
- しなしながら、前年実施した希望退職(丸善)等の経費削減等による収益改善が進み、299百万円(対前118.0%)の増益となった。

- 学術研究や教育向けの、洋書や電子書籍を含む各種出版物、情報資料の提供
- 研究者支援ソリューションの提供
- 図書館用書籍の販売、書誌データベース(TRC MARC)の作成・販売、図書装備等の提供
- 教育・研究施設、図書館などの設計・施工、大学経営コンサルティングなど各種ソリューションの提供
- 大学内売店の運営、教科書販売



4. 主要事業 ②店舗・ネット販売事業

(単位：百万円)

平成25年 1月期	当期	前期	対前期
売上高	<u>78,657</u>	83,741	△5,084 (93.9%)
営業利益	<u>△263</u>	△734	471 (---)

- リニューアルによる既存店強化やスクラップ&ビルドを実施し、またハイブリッド化によるhontoポイントの導入効果等から、書店事業は営業黒字化し、当セグメントの損益は大幅に改善された。
- セグメント売上はスクラップ&ビルドの影響とTRCのオンライン書店を(株)トウ・ディファクト(honto)への移管したことで減収となった。
- セグメント損益は、書店事業は黒字化したが、前項のオンライン書店の移管に伴う費用や、丸善(株)で運営していた東北地方の郊外型店舗事業会社の清算、松丸本舗閉店などに伴う費用の発生等があり、営業赤字であった。

- 全国に「MARUZEN」「JUNKUDO」及び「MARUZEN & JUNKUDO」の3ブランドによる店舗網で、和書、洋書、文具・雑貨等の販売
- ハイブリッド型総合書店「honto」とのサービス連携
- hontoブックサービスによる、オンライン書店の企画開発



4. 主要事業 ③ 図書館サポート事業

(単位；百万円)

平成25年 1月期	当期	前期	対前期
売上高	<u>15,490</u>	14,010	1,480 (110.6%)
営業利益	<u>1,084</u>	1,036	48 (104.6%)

- 図書館受託館数が増加したことから、増収増益を確保。
- 大学図書館・公共図書館等合計で受託館数は期初から63館増となり、期末受託館数は合計753館となった。

- 公共図書館、大学図書館の業務(カウンター業務、目録作成、蔵書点検等)の請負
- 指定管理者制度による図書館の運営業務
- PFIによる図書館運営業務及び人材派遣



4. 主要事業 ④出版事業

(単位：百万円)

平成25年 1月期	当期	前期	対前期
売上高	4,914	5,008	△94 (98.1%)
営業利益	258	374	△116 (69.0%)

- 専門書では、シュプリンガー日本語版の刊行をはじめたことや、有力新刊もあったことから順調に推移した。
- しかしながら、一般書(児童書)での売上が厳しく、かつ、それに伴う一部商品評価の見直しも実施したことから、売上・利益ともに厳しい結果となった。

《丸善出版(株)の出版事業》

『理科年表』等の理工系分野中心の専門書、事典、便覧等の刊行。及びビデオ・DVDの発売。

《(株)図書館流通センター子会社 岩崎書店》

絵本・童話などの児童書、図書館向けの書籍の刊行。



4. 主要事業 ⑤その他事業

(単位：百万円)

平成25年 1月期	当期	前期	対前期
売上高	<u>8,344</u>	4,742	3,602 (176.0%)
営業利益	<u>591</u>	403	188 (146.8%)

- 当期からグローバルソリューションサービス(株)が加わったことと、前年まで震災の影響で厳しい業績だった店舗内装事業が、既存顧客のメンテナンスや保育所等の新規案件を獲得したことなどから、売上は対前年比176%の大幅な増収となった。
- これらの増収効果から、利益面でも188百万円、146.8%の対前年増益となった。

- 書店、その他小売店舗向けに、企画・設計デザイン、建設工事、内装工事、店舗什器、看板、ディスプレイ等のトータルプランニング
- PC、スマートフォンの修理を行うグローバルソリューションサービス(株)が当期から加入
- その他



5. 来期・平成26年1月期(当社第4期)業績予想

- ▶ 当期において当社グループは、厳しい市場環境の中で黒字を確保。今後はさらに収益構造の改善を進め、安定的な黒字体質を構築する。
- ▶ 来期(平成26年1月期)については、引き続き市場トレンドは厳しく推移するものと予想し、売上高は実質ベースで微増(※)となる見込み。(注;一部事業でこれまでの取引形態をやめて、新規形態を採用するため、下表表記の売上高は減収となっている。脚注参照)
- ▶ 一方、収益面では、公共図書館向け事業の安定的収益力と、図書館サポート事業および出版事業の伸長、書店事業が今期から黒字化基調に乗ったことから増益を見込む。

(単位：百万円)

【平成26年1月期予想】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期業績予想	86,600	1,150	1,130	860
<u>通 期 業 績 予 想</u>	※ <u>170,000</u>	<u>1,250</u>	<u>1,200</u>	<u>440</u>
当期実績(通期)との比較	※ ▲2,289	+78	+70	+24
[平成25年1月期通期実績]	172,289	1,172	1,130	416

※通期業績予想売上高の前年からの減少は、海外電子ジャーナルに係る取引形態について、従来の仕入販売をやめ、顧客購買の仲介・業務代行サービスを提供する形態の採用によるものです。従来通りの取引形態を継続したと仮定すると、売上高合計は174,100百万円(対前年+1,811百万円)となります。



6. 来期(平成26年1月期)戦略テーマ

①書店収益力の向上

当期営業黒字化となったリアル書店事業において、電子化や流通における将来の市場変化も見据え、今後のグループ収益の柱となるべく、さらに収益体質を強化する。

- 仕入物流構造改革による商品調達力・売り切り力の向上に向けた、仕入物流機能強化とシステム開発
- ハイブリッド化推進による、購買誘導プロモーションと戦略的商品開発
- 店舗メディア事業の拡大による、プロモーション媒体としての書店力の収益化

②大学向け事業の商品・サービス開発

少子化等の影響による市場変化を踏まえ、これからの大学に求められる機能・役割への支援事業として、新商品・新サービスの開発を推進する。

- 大学の教育力強化支援。図書館・ラーニングcommons等ソフト・ハードの融合型提案の推進
- 大学向け電子教科書・電子教材への取り組み。コンテンツ開発、システム連携
- オリジナル商品、DB型商品等の仕入・開発力の強化



ご参考資料



当期のトピックス

- 2月：丸善(株)において、大学を中心とした機関向け電子書籍提供サービス (Maruzen eBook Library)を開始。
- 2月：(株)図書館流通センターが図書館の維持管理業務を強化することを目的に TRCメンテナンス株式会社(非連結)を設立。
- 3月：(株)ジュンク堂が近鉄百貨店100%子会社である(株)ビックウィルに出資(非連結)。
- 5月：(株)図書館流通センター運営のオンライン書店「ビーケーワン」と(株)トゥ・ディファクト運営のオンライン書店「honto」のサービスを統合し、ハイブリッド型総合書店「honto」として新サービスを開始。
- 6月：ハイブリッド型総合書店「honto」とリアル書店ネットワークが融合するサービスのひとつとして、共通ポイントを導入。サービス連携の対象店舗は順次拡大予定。(本日現在38店舗)



ご参考:～新規出店・リニューアル店舗

	店名	面積	ブランド	備考
3月	アークヒルズ店(東京)*	52坪	MARUZEN	書籍
	新潟店*	1,615坪	JUNKUDO	書籍・文具(MARUZEN)
5月	弘前中三店(青森)	800坪	JUNKUDO**	書籍・文具(MARUZEN)
6月	広島店*	1,220坪	MARUZEN	書籍
	上本町店(大阪)	260坪	JUNKUDO	書籍
7月	秋田潟上店	300坪	JUNKUDO**	書籍
9月	名古屋栄店*	815坪	MARUZEN	書籍・文具
	秋田湯沢店	270坪	JUNKUDO**	書籍
10月	町田ジョルナ店	95坪	MARUZEN	文具
11月	丸の内本店*	1,750坪	MARUZEN	書籍・文具
1月	川崎ラゾーナ店*	914坪	MARUZEN	書籍・文具
2月	京都朝日会館店	250坪	JUNKUDO	書籍

*リニューアルオープン

**業務提携方式での運営

閉店店舗:

<MARUZEN>溜池山王、柏高島屋、名古屋ラシック、盛岡川徳、町田モディ、札幌アリオ

<JUNKUDO>新宿、京都BAL